

家庭教育支援事業

自治体名

岩手県金ケ崎町

震災後の地域の状況・仮設住宅数

当町は、岩手県の内陸南部に位置しており、津波浸水等の大きな被害はない。(被災地から 39 名 22 世帯を受入)
ただし、放射能の影響を心配する声がある。(仮設住宅数 0)

<取組名>

～子育て講座・家庭教育学級～

取組概要

実施形態 (該当に○)	自治体単独実施	団体等との連携実施	大学との連携実施	(連携している団体等・大学の名称)
	○			
実施主体・ 場所等	コーディネーター数	ボランティア延べ人数	年間実施日数(回数)	活動場所
				町内小学校、幼稚園、保育園、子育て支援センター

活動内容

※該当する内容に○

学校支援	学習支援	部活動指導	美化・環境整備	登下校指導	学校行事・その他
					()
学校と地域の 協働学習	復興学習	防災教育	伝統文化・芸能	職業体験・キャリア教育	イベント・行事・その他
					()
放課後等支援	学習支援	体験・交流活動	遊び・スポーツ	児童クラブとの連携	その他
					()
家庭教育・ 保護者支援	家庭教育講座	親子参加行事	サロン・相談対応	家庭訪問相談	その他
	○	○			()
地域課題に応じた 学習・交流	高齢者支援・世代間交流	心のケア・健康管理	生活再建・地域づくり	地域人材育成	その他
					()

【子育て講座 実技・講義「ブックスタート 絵本でリラックス」】

- ・絵本とのふれあいを通し、心の安定を図りながら、親子の関係づくりや楽しむ子育ての創造の機会とすることともに、地域の子育てママの交流の機会とすることを目的として実施した。
- ・講師自身の子育て体験談を交えながら、親子のコミュニケーションをとる方法の1つとして、「絵本の読み聞かせ」について、実践及び講義が行われた。
- ・実際に子どもを抱っこしながら読み聞かせを行い、子どもはママの声を聞きながら安心した様子で、真剣に絵本を見ている様子が伺えた。
- ・まだ絵本の読み聞かせを行っていない参加者もあり、良いきっかけの場となった。

【家庭教育学級 講演「かしこい子に育てる土台」】

- ・なぜ睡眠が大切なのか、早寝、早起きの本当の意味を知ることにより、成長していくための基盤が、幼児期に出来ることを学んだ。
- ・普段の生活リズムを直していくために、どのように子どもと接していくかなど、具体的にお話しいただき、各家庭での生活リズムを見直すきっかけとなった。



取組の変遷

準備段階

◇被災による課題

- ・被災地から39人22世帯が当町へ避難し、受け入れている。(昨年より3人1世帯が減少)
- ・当町では、震災による大きな被害はなかったが、被災地への支援や被災者との交流等により、県全体の復旧復興を目指している。
- ・県南部のため、放射能の影響や H20 岩手・宮城内陸地震の経験等、今後さらに防災教育の重要性が増している。防災という視点からも、地域コミュニティの再生に継続的に取り組む必要がある。
- ・地域コミュニティの核となる家庭の教育力の更なる向上が必要である。

◇住民等からの要望・必要な取組

- ・地域コミュニティを再生するうえでも、家庭の教育力を高める具体的な支援が必要である。
- ・規則正しい生活のリズムとして、「早寝、早起き、朝ごはん」は普段からできているが、「運動」ができていないため、時間がないときでも、親子で簡単にできる体を動かす取組方法がないかとの要望がある。



体制づくり・取組の実施

◇協力を呼びかけた団体・関係者、役割分担

- ・金ヶ崎町、金ヶ崎町教育委員会 : 実施主体
- ・小学校、幼稚園、保育園 : 保護者への周知、活動場所の提供
- ・子育て支援センター、生涯教育センター : 地域住民への周知、活動場所の提供

◇取組の充実や課題解決のための工夫

- ・地域全体に周知するために様々な場を利用し、周知活動を行っている。
- ・講義や講演を聞くだけでなく、実技や交流の場も設定し、子育ての不安解消に努めている。
- ・参加者アンケートにより、ニーズ把握に努めている。
- ・講義のお話しでは、講師自身の子育て体験などを交えながら解りやすく話していただくようお願いしている。



成果・課題や今後の展望

◇これまでの取組による成果

- ・本事業で学校と連携し実施することにより、町内の多くの保護者に学びの場を提供することができた。
- ・親同士で交流する場を設定したことにより、お互いの悩みを話したり、アドバイスを受けたりし、参加者全体で話題を共有し、子育ての不安を解消することができた。

◇復興に資する内容としての数値的達成の成果

- ・被災地から当町へ避難している中には、子ども4人(小学生2人、幼児2人)がおり、本事業に参加いただき、学びの場を提供することができた。

◇課題や今後の展望

- ・地域コミュニティを継続して充実していくため、家庭のみならず、地域の方々にも理解いただく取組みを強化する必要がある。
- ・地域や子どもの年代に応じた内容で事業が実施できるよう、学校との意識を統一が必要である。